

3月28日 (土)		
12:30	受付開始	
13:00-13:05	開会挨拶	
	【パネル1】 The Significance of Mecca for Indonesian Muslims in the 19th Century *	【セッション1A】 海の世界の生業と知識の所在
13:05-13:45	SHIOZAKI Yuki (University of Shizuoka) Interactions between Ulama from Indonesia and Other Regions in Mecca	明星 つきこ (金沢大学) 南スラウェシにおける木造船づくりの現状 -生産体制と船大工のキャリア形成を中心に
13:45-14:25	Zainul Milal Bizawie (Islam Nusantara Center) Diponegoro and Indonesian Ulama Community in Mecca	間瀬 朋子 (南山大学) オーストラリア領海への越境という生業 -インドネシア東部ロテ島三集落の比較から
14:25-15:05	Ahmad Ginanjar Sya'ban (Universitas Nahdlatul Ulama Indonesia) The Significance of Jawi Literatures in Mecca	中野 真備 (京都大学) バンガイ諸島・サマ人の環境認識の重層性 -外洋漁撈をめぐる魚類・漁場・目標物の民俗分類から
15:05-15:15	休憩	
	【シンポジウム1】 アブラヤシはインドネシアに何を提起したか? -日本の研究者・NGOの立場から考える	司会: 永田 淳嗣 (東京大学) コメンテータ: 岩佐 和幸 (高知大学)
15:15-17:45	プログラム委員会・林田 秀樹 (同志社大学)	趣旨説明
	林田 秀樹 (同志社大学)	アブラヤシがもたらした「豊かさ」の維持と「偏り」の克服
	嶋村 鉄也 (愛媛大学)	熱帯泥炭湿地におけるアブラヤシ農園をめぐる環境問題と科学的知見
	寺内 大左 (東洋大学)	東カリマンタンの焼畑民はアブラヤシ農園開発をどう見たか
	飯沼 佐代子 (地球・人間環境フォーラム)	パーム油のエネルギー利用に関する日本のNGOからの働きかけ
	弾丸プレゼン/Lightning Talk 「わたしの研究」	※本セッションでは、質疑応答の時間は設けられていません。 司会: 森下 明子 (立命館大学)
17:50-18:20	山本 舞 (上智大学)	総合的エビ研究の構想-ジャワにおける多様なエビ類産業と産業間の関係に着目して
	依田 ひかり (京都大学)	美人コンテストの表象と実態-3つのコンテストの事例から
	上石 景子 (南山大学)	古ジャワ文学の伝統の中で受容される『ガトーカチャーシュラヤ・カカウイン』
	細淵 倫子 (京都大学東南アジア地域研究研究所)	泥炭地における森林火災を生じさせる社会的・政治的要因を探る-リアウ州での事例から
	阿由葉 大生 (東京大学)	インドネシアの「保険社会」化-国家医療保障制度のインパクト
	山口 元樹 (東洋文庫)	インドネシアのイスラーム運動とナショナリズム-オランダ植民地末期におけるアラブ地域からの影響
18:30-20:30	懇親会	

3月29日 (日)			
	【セッション2A】 データが拓く新たな地域理解	【セッション2B】 組織と経済のポリティクス	【セッション2C】 社会把握・歴史解釈への視角
09:30-10:10	中島 百合子 (Universitas Airlangga) 東ジャワの貧困要因分析と経済成長に対する教育の重要性	中島 健太 (南山大学) インドネシア警察のリーダーとは誰か? -歴代国家警察長官 (1945-2019年) の経歴分析を手掛かりに	中川 敏 従われない規則を守るしかた -エンデにおける「母方交叉イトコ婚」
10:10-10:50	梶田 諒介 (総合地球環境学研究所) 1879-1900年の植民地期スマトラ島における24観測地点の降雨観測記録の復元	小西 鉄 (大阪経済法科大学) インドネシアにおける国営企業に対する金融監督の実効性 -国営 Jiwassraya 事件からの一考察	Lina Meilinawati Rahayu (Universitas Padjadjaran) Post-Independence Indonesian Social Identity in the "Nyanyi Sunyi Revolusi" Drama *
10:50-11:30	東 佳史 (立命館大学) 地理情報システム (GIS)を用いた紛争後社会の熱帯降雨林の減少要因解明にむけて -アチェ・ダルエスサラーム国における2019年のデータを用いて	吉田 航太 (東京大学) 反政治機械=「社会」機械としてのロンバ -東ジャワ州スラバヤ市における環境コンテストと「マシャラカット」	
11:40-12:00	運営委員会報告		
12:00-13:15	昼食休憩		
	【シンポジウム2】 〈インドネシア研究最前線〉を望む 🌐		司会: 山口 裕子 (北九州市立大学)
13:15-15:15	本名 純 (立命館大学)	ポスト・レフォルマシ20年からの展望	
	大泉 啓一郎 (亜細亜大学)	デジタル化するアジア: インドネシアの経済と成長に及ぼす影響	
	伊藤 眞 (首都大学東京)	インドネシアにおける高齢化とケア・アクティブ・エイジングとの関連で	
15:15-15:25	休憩		
	【パネル2】 A Digital Approach to Cultural Heritage Management in Indonesia: The Borobudur Project *	【セッション3A】 民族と宗教の動態	【セッション3B】 政治化される衛生と環境
15:25-16:05	Fadjar I. Thufail (LIPI) & Sugeng Riyanto (Yogyakarta Archaeology Office) Digitizing Borobudur as a Cultural Landscape	小池 誠 (桃山学院大学) 東部インドネシア・スンバ社会におけるマラブ信仰と人権をめぐる動き	金子 正徳 (人間文化研究機構) "Yuk, Cuci Tangan Pakai Sabun!" -清潔さをめぐるインドネシアの文化変容
16:05-16:45	TANAKA Satoshi (Ritsumeikan Univ.) High-Quality and Transparent Visualization of Borobudur Temple based on 3D Scanning	大澤 隆将 (総合地球環境学研究所) スク・アスリの先住民性と宗教選択	加反 真帆 (京都大学) 泥炭地域の社会構造からみた泥炭保全ガバナンスのパラドックス -インドネシア、リアウ州の事例
16:45-17:25	YAMAGUCHI Hiroshi (Nara National Research Institute for Cultural Properties) 3D Scanning of Borobudur Temple and Dissemination of the Measurement Technology	中村 昇平 (日本学術振興会・金沢大学) 集落と民族の帰属意識はいかに両立するか -ブタウィ人の武術と演劇の実践から	
17:25-17:30	閉会挨拶		

* 使用言語: 英語